
令和6年能登半島地震による 伏木港大橋における 被災の状況調査報告

この度の地震により亡くなられた方々のご冥福を
お祈り申し上げますとともに、被災された皆様に
心よりお見舞い申し上げます。

防衛大学校 松崎 裕

伏木港大橋の概要および周辺の被災状況の概要



鋼箱桁橋2連＋鋼下路ローゼ橋
＋PC桁橋5連

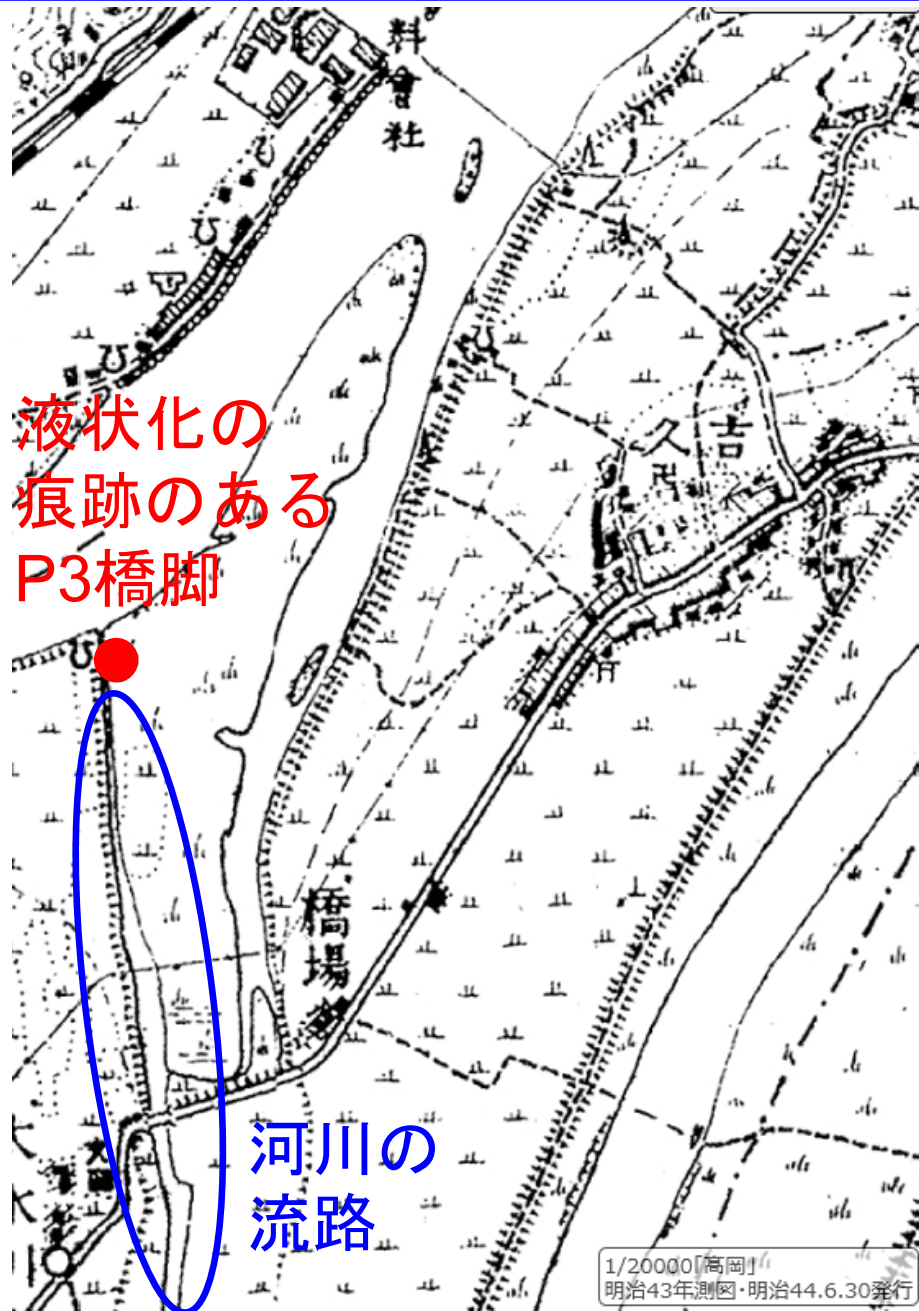
1974年竣工

小矢部川に架かる橋梁であり、
左岸の伏木地区(震度5強)、
右岸の吉久地区ともに
多くの住宅が液状化により被災

特に**伏木港大橋の右岸側は旧流路
あるいはその周辺に位置すると**
思われ、震度5強程度から顕在化する
液状化の影響も少なからずあると
判断されたことから、現地の状況を
調査した。

明治期の低湿地データ(クリーム色
で着色)を重ねた国土地理院地図

1910年測図の地図と現在の地図の比較



1910年測図の地図



今昔マップ on the web

2024年2月5日時点で通行止の状況



P3橋脚における液状化に伴う噴砂の痕跡

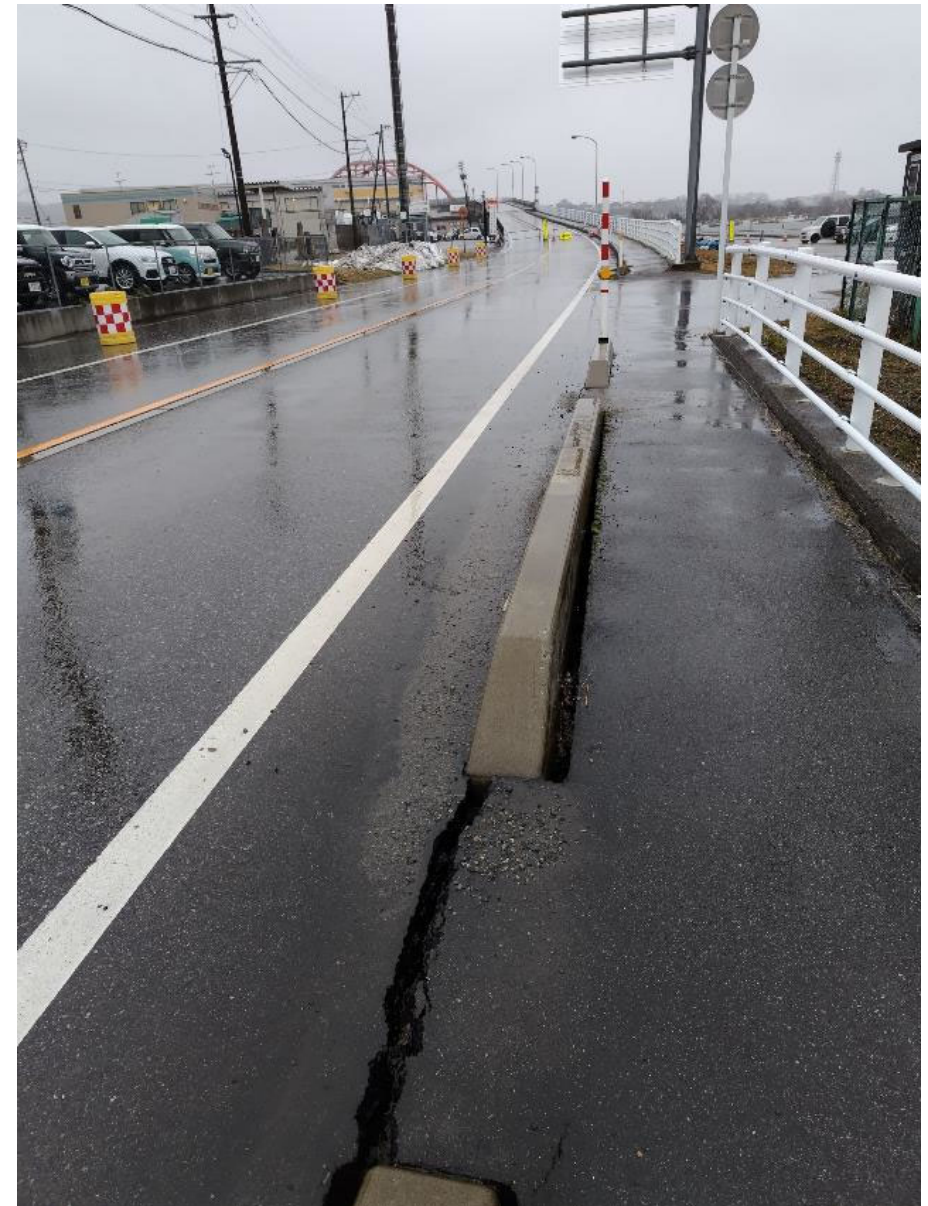
構造物の地震時挙動に伴う
地盤－構造物間の隙間
(P3橋脚の河川側)



小規模ではあるが、液状化に伴う
噴砂の痕跡 (P3橋脚の陸側)

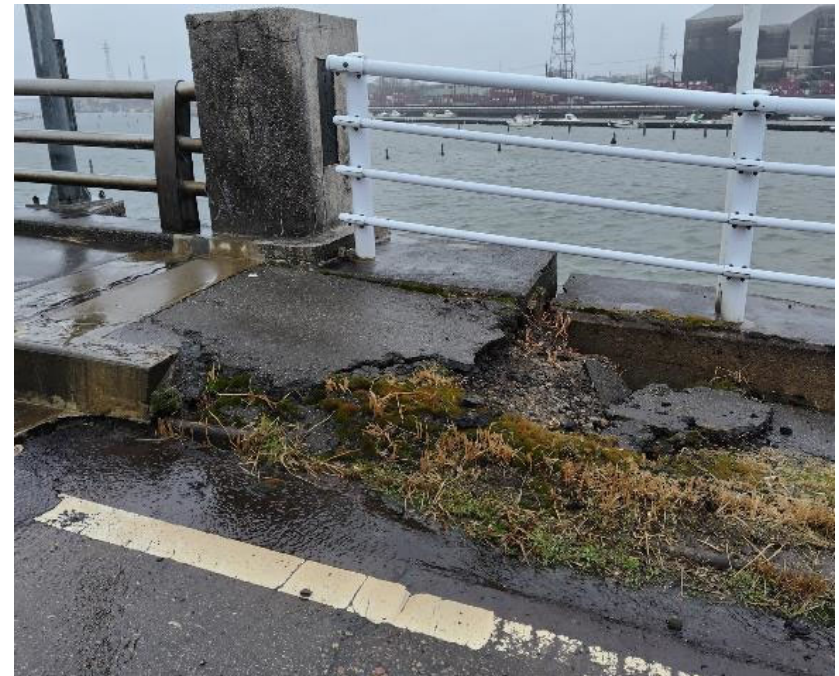


旧流路上およびその周辺に位置する部分の被災の状況



2024年2月5日撮影

A2橋台の背面盛土の沈下に伴う損傷の状況



2024年2月5日撮影

目視できた範囲では、橋脚や支承等に地震時損傷は無し



2024年2月5日撮影

目視できた範囲では、鋼下路ローゼ橋区間に地震時損傷は無し



腐食の状況



2024年2月5日撮影

まとめ

津波による被害，震源域直上における斜面，橋梁，トンネル，水道管等の地震動による甚大な被害に加えて，今回の地震では，新潟県・富山県も含めた広範囲で液状化に伴う被害が報告されている。

震度5強程度から顕在化する液状化の影響を受けたと思われる富山県高岡市の伏木港大橋の状況の調査を行ったところ，以下の被災の状況が確認された。

- 河川の旧流路上あるいはその周辺に位置するP3橋脚の付近では，小規模ではあるものの，周辺の伏木地区・吉久地区と同様に液状化に伴う噴砂が確認された。
- 河川の旧流路上あるいはその周辺に位置する箇所では，橋台背面盛土の沈下，路面等の損傷が確認された。
- 鋼下路ローゼ橋区間では鋼材腐食が顕在化しているものの，目視できた範囲では，PC桁区間および鋼箱桁区間を含めて，上部構造・上下部接続部・下部構造の地震時損傷は認められなかった。